

# ロボカップ世界大会参加報告



電子情報システム工学専攻 1年 野津 佑太

ロボカップは1997年より毎年開催されているロボット競技会です。2050年に、「サッカーの世界チャンピオンチームに勝てる、自律型ロボットのチームを作る」ことを目標に世界中の大学で研究が続けられています。松江高専のロボカップチームである我々「MCTスサノオ・ロジックス」は、2013年にオランダで開催された世界大会に引き続き、2014年にブラジル/ジョアンペソアで開催された世界大会にも参加しました。



スサノオ・ロジックスは、ロボカップの中のSSL (Small Size League) に参加しています。SSLは直径18cm、高さ15cm以内のロボット6台対6台で、8m×6mのフィールドの中、オレンジ色のゴルフボールを巡って試合を繰り広げます。ただし、ロボカップのロボットは人間の操縦ではなく、AIの指示でゲームが進行します。

SSLには世界各国から21チームが参加しました。予選リーグは5リーグに分かれての総当たり戦で、スサノオ・ロジックスのBリーグのチームは、2014年に2位になったカーネギーメロン大学、コロンビアのセント・トマス大学、イランのアミール・キャビール工科大学、ブラジルのリオ・グランド大学とサンパウロ大学の全6チームでした。カーネギーメロンという強豪には0-10とボロボロにされましたが、他の格上のチームに対して技巧を凝らした作戦で引き分け、また世界大会での初勝利を飾ることができました。結果、ブラジル世界大会の成績は1勝2敗2引き分けとなりました。

片道合計20時間を超えるフライト、毎年恒例になりつつあるホテルのダブルブッキング、ポルトガル語しか通じないブラジルの店など困難が多々ありましたが、学生にはとても大きな経験となりました。現在、2015年の中国大会に向けて日々開発を続けています。引き続きご支援ご声援をよろしくお願いいたします。

# 部活動の今

わが松江高専ボート部は昭和39年松江高専開校の2年後に、同好会として活動が始まり、昭和42年に漕艇部として発足した歴史ある部です。昨年(2014)は、松江高専ボート部創立50周年、佐陀川漕友会創立35周年の記念式典が開かれました。2014年10月時点で会員182名、現部員26名の大所帯です。式典には残念ながら全員は参加できませんでしたが、OB会員諸先輩方の素晴らしい功績や歴史にふれ、またOB会員と現部員の親睦が深まりました。

2015年6月現在、ボート部員は2年～5年生18名に加え、5名の新入部員を迎えました。5月6日に開催された朝日レガッタではダブルスカルで3位入賞、5月29日30日に開催された高校総体では総合優勝という部活動初の快挙をなすとげました。7月のインターハイには3名の部員の出場がきまっており、より高みをめざして奮闘しています。

日々の練習は正直きびしく、いいことばかりではありませんが、部員一人一人それぞれに自分なりの目標をもち日々自己研鑽には

げんでいます。OBの諸先輩方に、応援していただきながらこれまでの歴史を誇りとし、ボート部の歴史の新しい1ページを、私達が輝かしいものにしていきます。



# 編集後記

同窓会会報第5号をお送りします。

昨年、松江高専開校50周年を迎え、同窓会員も様々な行事に参加いただきありがとうございました。1つの節目を越えたことで新会長を含め理事会も顔ぶれが変わってきています。新メンバーで5年後の同窓会50周年に向けて同窓会活動を推進していきたいと思っております。また、母校に奉職する22名を含め、現在の7,000名を超える会員の連携をより深め、内外からの様々な要請に応えることのできる同窓会を目指していきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

# 事務局より

事務局交代により事務局が今尾(電気16期)、加藤(電子制御11期)になりました。今後ともよろしくお願いいたします。

○本年度、松江高専は鳥根県と連携して「松江高専卒業生ネットワーク強化推進事業」を実施することになりました。これは、鳥根県外で就職された卒業生と鳥根県の事業者を結ぶことでその連携を強化する事を目的としています。年度内に開催予定の東京、大阪、広島での交流会には同期生や同業の卒業生をお誘い合わせの上、多数参加いただきますようお願いします。

○同窓会として名簿を発行していない事もあり、会報を送付できない同窓生が全体の70%位となっています。クラス会等を開催された際には全体の同窓会活動についても周知いただき、住所等を登録いただくことを依頼下さい。連絡先：m-soumu@matsue-ct.jp

# 松江工業高等専門学校

# 同窓会 会報

復刊  
第5号

2015.8.1発行

## 同窓会事務局

〒690-8518 鳥根県松江市西生馬町14-4 松江工業高等専門学校内  
TEL: 0852-36-5111 FAX: 0852-36-5119 E-mail: m-soumu@matsue-ct.jp  
<http://www2010.matsue-ct.ac.jp/dosokai/>

# 就任のご挨拶

松江工業高等専門学校同窓会 会長(24期・土木) 陶山 知政



盛夏の候、松江工業高等専門学校同窓会会員の皆様におかれましては、ご健勝にて国内外でご活躍のことと思います。

私は、この度、同窓会の会長を仰せつかりました土木工学科(現環境・建設工学科)24期の陶山知政と申します。

昨年、私たちの母校松江工業高等専門学校が昭和39年の開学以来、独立行政法人化など時代の変化に対応しながら50周年の節目を迎えたところであり、これを機に世代交代を図りたいとの前会長の思いからご指名をいただき、まだまだ若輩者ではありますが、お引き受けすることになりました。

現在では、同窓会の会員数も7,000名を超える規模となり、会員の消息を把握することすら困難となり、代議員総会の開催もままならない状況になりつつあります。

今まで諸先輩方々が築き上げてこられた母校同窓会を維持・発展させていくために、まずは代議員の皆様と確実

に連絡が取れる体制を構築し、更に代議員の皆様と連携してネットワークの強化を図っていくことを就任最初の目標として掲げ、取り組みを進めたいと考えています。

また、今後は各地域での同窓生の交流会、あるいはクラス単位での交流会を実施していただける方々との連携も大切にしていきたいと考えております。

半世紀という長い歴史から世代間の意識の違いもある中で、同窓会全体での活動を進めて行くことは、大変困難なことであると認識をしておりますが、少しでも同窓会が会員の皆様にとって身近な存在となるよう微力ながら努めてまいります。

最後になりましたが、これまでも母校で教壇に立たれ、同窓会活動の維持に絶大なるご尽力をいただいている会員の方々に対し心より敬意を表するとともに、会員の皆様には今後とも本同窓会と母校の発展にご理解とご支援をお願いし、就任にあたってのご挨拶とさせていただきます。

# 退任のご挨拶

松江工業高等専門学校同窓会 前会長(10期・土木) 多久和 正司



全国では大雨や火山活動等自然災害が発生していますが、松江は今のところ大きな災害もなく、神々のご加護と感謝しています。

昨年は母校松江高専創立50周年を迎え、記念式典をはじめとする行事が盛大に行われました。次の50年

に向かううえで、この際、役員体制を刷新し、本同窓会の一層の活性化を図るちょうどよいタイミングではないかと

考え、会長職を退かせていただき、陶山新会長にバトンタッチすることを理事会でご承認いただきました。

在任中は皆様のご期待に添えたかわかりませんが、皆様本位の同窓会を目指して運営にあたってまいりました。

今後は、若い新会長と経験豊かな副会長を中心とする新体制の下、幅広い年齢層の会員の声に耳を傾け、皆様に身近な同窓会となることを期待するところであり、引き続き皆様のご理解とご支援をお願いいたします。

長い間大変ありがとうございました。

# 50周年事業の御礼と学生たちの活躍



松江工業高等専門学校

校長補佐(学生主事)(18期・機械) 高見 昭康



今年度より学生主事を担当することになりました機械工学科の高見です。昨年度の教務主事に就任された電気工学科OBで情報工学科の原先生に続いて、機械工学科OB(18期)による主事です。また機械工学科教員としては、㊦マークでお馴染みであった北尾謙一先生以来30年ぶりの学生主事となります。北尾先生のように厳格で威厳のある主事が務まるかどうか分かりませんが松江高専のために一所懸命に頑張っていきたいと思っています。また、昨年度まで同窓会事務局局長を務めさせて頂き、本校創立50周年事業委員も仰せつかりました。同窓会員の皆様には、多くの寄付をして頂き、卒業生交流会にも多くの方々にご出席して頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、学生たちの活躍についてご紹介しておきたいと思っております。今年度7月3日(金)～6日(月)に「第51回中国地区高等専門学校体育大会」が山口県で開催され、本校は団体9種目

で優勝、個人でも多くの選手が優勝するなど、多数の学生が活躍しました。優勝した団体と個人入賞者は、8月14日(金)から九州地区で開催される「第50回全国高等専門学校体育大会」に出場します(団体優勝・男子バスケット、女子バスケット、男子バレー、女子バレー、柔道、剣道男子、水泳総合、サッカーBパート、バドミントン男子)。大会結果の詳細は本校ホームページトピックスをご覧ください。予想以上の全国出場のため予算が足りず選手の個人負担も例年より多くなると思われます。同窓会員の皆様においても選手たちに応援ならびにご支援をして頂けると幸いです。

最後に、別紙にも紹介しておりますが、本校は島根県と協力して「松江高専卒業生ネットワーク強化推進事業」を実施いたします。是非、同窓会員の皆様のご参加のほどよろしくお願いたします。

同窓会員の皆様方には、今後も松江高専ならび学生たちを暖かく見守って頂くとともに、応援とご支援のほど、よろしくお願いたします。

# 会員の声

2名の会員の皆様に、松江高専に対する想いを綴っていただきました。

## 懐かしの学び舎を訪ねて

11期・生産機械 実重 賢治



先日、高専祭に合わせて久しぶりに母校の門をくぐりました。風の噂に母校は変化を遂げ、我が生産機械工学科も今は無く、私たちの恩師も、退官され好々爺としてご活躍されておられたり、既に鬼籍に入られた先生もおられるとの事。たぶん学内に入ったら、時の流れに無常感を禁じえないのではと考えておりました。しかし、学内のあちこちを歩いてみますと、ここかしこに私たちの学生時代と変わらない風景、変わらない学生諸君の伸びやかな様子に接することが出来ました。特に研究室内の雑然さ(笑)。これは経験のある者にしか分からない事ですが、学問への気概と精神の大きさや雄弁に物語っておりますね。これらを見るにつけ、懐かしき友・恩師に出会った様な興奮を覚え、学生として過ごした日々が甦った気がしました。私は今、母校で学んだのとは違う分野の技術者として生計を立てております。しかしながらこれに至る道、技術力への飽く無き探究心とそれを応用し社会に貢献して行く技術者魂を、本校で教えて頂いた結果なのだ感謝し、学び舎を感慨深く眺めることが出来ました。在校生諸君も技術に関する知の狩人としての気概に満ち、楽しい世の中を共に構築して欲しいものと願って止みません。

## 呉の地から

11期・電子制御 外谷 昭洋



私は、2004年に専攻科を卒業し、現在は広島県の呉高専で後進の教育に携わっております。松江高専に在籍していた7年間は、先生方や同級生、部活の仲間などたくさんの人に恵まれ、学業面など大変なこともありながらも有意義で楽しい高専生活を過ごすことができました。特に、本科の5年間をともにした電子制御の同級生は、個性がありながらも団結力が強く、体育祭や高専祭ではクラスで一つとなり、つらい時も助けてくれる貴重な存在でした。

現在の呉高専での教員生活は4年目になります。担任や授業などを通して学生と接する中で、お世話になった当時の先生方のご苦勞を感じて感謝するとともに、今教えている学生が10年後20年後に“高専に行ってよかったな”と思えるように日々の教育に取り組んでいます。大変な中にも責任がともなう教員生活ですが、同じ高専で時間を共にした同窓生が日本の各地や海外で活躍している話を聞くたびに、私ももっと頑張らなれないかと思ったりしています。

最後になりましたが、呉の地から松江高専のさらなる発展と各地で活躍する同窓生の活躍を祈念しております。

# 平成26年度 定年退職教員 紹介

昨年度をもって、築谷隆雄先生、郡原宏先生、高田龍一先生の3名の先生方が松江高専を定年退職されました。その3名の先生方にお言葉をお寄せいただきました。

## 思い出と御礼

電気工学科 築谷 隆雄

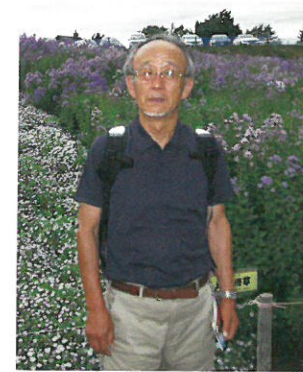
私は昭和49年4月から41年間、松江高専に勤務し、この3月に定年退職いたしました。その間、同窓会の皆様方には、格別なご指導とご協力を賜りました。心より御礼申し上げます。

振り返ってみますと、前半の20年間は、学生指導を中心とした教員生活であったと思います。学級担任や学生部、寮務部、教務部等のメンバーとして、学生指導に係わる仕事をして参りました。また、陸上競技部の顧問も務め、部活を通じての思い出も多くできたと思います。

後半の20年は、専攻科が設置されたこともあり、多少、研究活動に力を注ぎました。初代の専攻科長を拝命し、試行錯誤ではありましたが、専攻科の運営に携わりました。一期生全員が進路を決めて、学士試験にも合格して修了できたことは、今でも嬉しく思っております。この時期は、多忙ではありましたが、充実した毎日であったと思います。これも皆様方のご協力のお蔭であると感謝しております。

この4月からは、週2日、松江高専でお世話になっております。その傍ら、野菜作りやトレッキングに励んでおります。退職後、3ヶ月が過ぎましたが、楽しみながら毎日を過ごしております。先日は、富良野にアスパラ栽培の研修に行きまして。アスパラ作りは、石の上にも3年だそうです。じっくりと取り組みたいと思っております。今後は、趣味の知見も広めて参りたいと考えております。

最後に、松江高専に勤務できたことに感謝し、松江高専、ならびに同窓会の皆様方の益々のご発展をお祈りいたします。末筆ながら、退職に際し、同窓会から丁寧な記念品を賜りました。衷心より御礼申し上げます。同窓会の皆様、誠に有難うございました。



富良野にて(平成27年7月)

## 同窓会の皆様へ

機械工学科 郡原 宏

昭和51年4月に松江高専に着任して以来39年にわたる教員生活に幕を下ろし、この3月に定年退職いたしました。その間、苦しいことや切ないこと等が多々ありましたが、学生の皆さんの元気を少しずついただき、何とか乗り越えることができました。感謝いたします。

さて、着任時もそれなりの評価をいただいておりますが、近年、高専卒業生にたいする社会的評価は当時とは比較にならないくらい高くなっております。在職中、県内外のいくつかの企業と共同研究を行う機会がありましたが、「4大生はいらない。高専卒がほしい」という企業側の声を何度も耳にいたしました。これも、高専設立の理念である「実践的技術者の育成」のもとで勉学に励まれ、卒業後も研鑽をつまってきた同窓会の皆様のご努力の賜物と敬意を表します。同時に、本校同窓会に代表される強固な組織の中での縦横のつながりが生み出す有形無形の力が大きく寄与したと思っております。昨年、創立50周年を迎え、次の50年に向けて高専は歩み始めました。時代とともにその意味は変遷するかもしれませんが、設立の理念である「実践的な技術者」を肝に銘じ、他の高等教育機関卒とは一線を画した新しい技術者像を目指し、さらに研鑽を積んでいただきますようお願い申し上げます。卒業生の皆様の今後のご活躍を心よりお祈り申し上げます。末筆ながら、退職に際し、同窓会より記念品を頂きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。



## 同窓会の皆様のみすますのご発展を!!

環境・建設工学科 高田 龍一



平成11年より16年間にわたり本校で教鞭をとらせていただきました。その間、同窓会の皆様には公私にわたりご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

とりわけ、16年間の大半を地域との連携に関わる校務に携わらせていただき、同窓会の皆様との関わりに支えられて今日を迎えることができました。今日、松江工業高等専門学校も一定の高い社会的評価を迎えるに至っております。このことは、とりもなおさず卒業生である同窓会の皆様のおかげのご活躍の賜物に他ならないと感じております。改めて、松江高専は同窓会の皆様に支えられていることを実感するこの頃です。私もこのような素敵な学び舎で教壇に立たせていただきましたことを誇りとして、これからの人生を過ごしてまいりたいと考えております。同窓会の皆様のみすますのご活躍、が発展を祈念し、退官のご挨拶とさせていただきます。

末筆になりましたが、退官にあたりご丁寧な記念品の品を賜り心より感謝申し上げます。皆様のご多幸をお祈り申し上げます。